

当日のお手入れ

雨庭整備以降、時間が経過しており、植物の生育とともに雑草も生えていました。

雨とともに流れてきた土砂が堆積している様子も見受けられました。

それぞれの雨庭の観察とともに、堆積した土砂と雑草を取り除きました。



雨庭Aの除草

石を敷いたくぼ地の周りで、植栽のそばに生えた雑草を手で取り除きました。



雨庭Bの除草

低く広がる植栽の間で雑草を抜き取り、地表を全体的に手を入れて整えました。

手入れの成果

2つの雨庭で除草を実践

雨庭A・Bの植栽の周辺や地表の草を取り除きました。植物を残しながら手入れを行う、日常の管理作業を実践する機会となりました。

花や葉の様子を確認

雨庭には、葉を広げる植物や、花をつけた植物も見られました。

身近な植物の生育に目を向けることは、手入れを続けるうえで大切な視点です。



植栽の周りから取り除いた草

手入れを続けるためのポイント

残す植物を確かめる

葉の形や植えた場所を確かめながら、
除草を行いました。
植えた植物と雑草の見分けが付きにくく、
判断に迷うことがありました。

生育の変化を記録する

同じ場所から写真を撮り、植物の広がりや
開花の様子を記録することで、
次の手入れの参考になると思いました。
季節の変化を楽しみながら見守ることも、
雨庭に関わる方法の一つです。



雨庭で見られた花とつぼみ

今後に向けて

雨庭の普及を目指して

今回の活動を、雨庭の継続的な手入れと、普及につなげていきます。

植物の生育や季節ごとの変化に加え、雨の後の水のたまり方・引き方も、今後の観察の視点となります。

こうした身近な場所での取組を通じて、雨水を地中へしみ込ませるまちづくりへの理解と関心を広げることを目指します。



今後に向けた意見交換の様子

公園を訪れた際は、雨庭の植物や季節の変化にも目を向けてみてください。